



フエの生活時計



京城内の幹線道路の様子

暑さが厳しく、エアコンもまだ十分に普及していないフエでは、人々は、一日の太陽の動きに合わせた生活をおくっています。ここでは、交通量調査を中心に、一日の時間の中で、人々が都市空間をどのように使っているのかについてまとめます。

交通量調査

京城内の人々の移動と時間との関係を解明するために交通量調査を行いました。

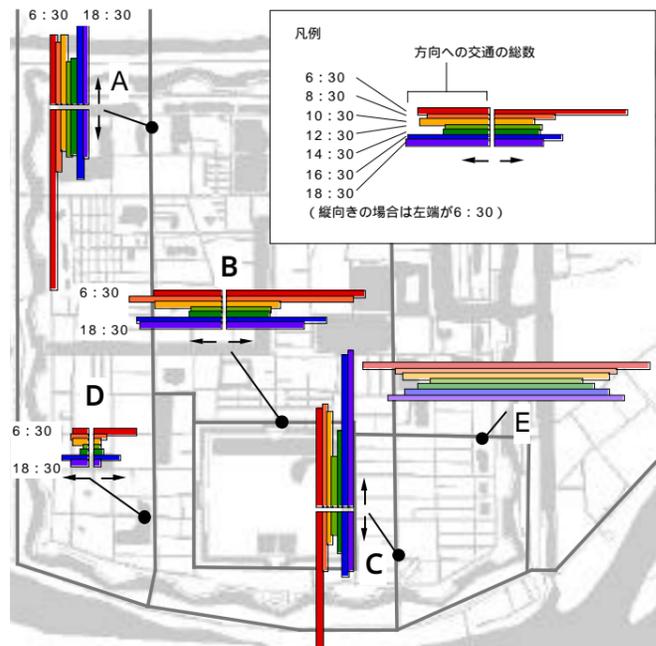
調査方法

京城内の幹線道路4地点および住宅地の生活道路1地点について、日の出直後の6:30から2時間おきに、日の入り直後の18:30まで1日7回観測を行いました。それぞれの時間について10分間に通過した方向別の台数およびその種類について記録しました。

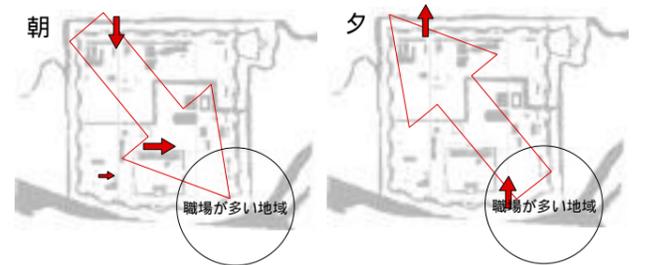
- 調査日時
1999年8月31日(水)
6:30、8:30、10:30、12:30、14:30、16:30、18:30の7回。
それぞれの時間から10分間。
- 調査地点
A グウェンチャイ通り北西門付近 (幹線道)
B ダンタイタン通り王宮北門付近 (幹線道)
C ディンティンワン通り南東門付近 (幹線道)
D トラングウェンハン通り (生活道)
E マイチュクロアン通り東門付近 (幹線道)
E地点については8月7日の調査で方向別に記録していないので、ここでは分析に用いないものとします。

道路には何が走っているのか

自動車中心になってしまった日本の道路とは大きく異なり、フエの道路を走っているのは、ほとんどが自転車とバイクです。すごい台数の自転車やバイクが道路を行き来するのですが、右側通行は徹底していますが、京城内には信号がなく、左折をするときには、みんな手で合図を出しています。自転車もバイクもまだ高価なもので、一家に1台ぐらいしかないので、親子でバイクに4人乗りする姿や、大人用の自転車を小さな子供が立ち漕ぎする姿をよく見かけました。また、商品を担いで歩く行商の女性や、人や荷物を運ぶシクロ、農地が多いA地点では10頭近い牛を連れて歩く少年などベトナムらしい光景も多く見られました。



交通量調査の結果



朝・夕ピーク時の人の流れ

交通量調査に見る一日の人の動き

日の出直後の通勤ピーク

フエでは日の出と同時に1日がはじまります。あたりが明るくなるのは8月下旬で朝6時頃でしたが、6:30の観測で朝のピークが確認できました。A地点では京城内に入ってくる北から南への流れ、B地点では王宮の西側から東側に向かう流れ、C地点では京城の外に向かう北から南への流れ、D地点では住宅地から外に向かう西から東への流れが極端に多くなります。これらの向かう方向から、王宮東門付近の公共施設群や、ドンバ市場周辺の商業地区や新市街などを目指す通勤・通学ラッシュであると考えられます。

日差しが強く静かな日中

太陽が真上から照りつけ、暑い日中の観測では、どの地点でも極端に交通量が減少しています。そんな中でも、10:30には学校から帰る小・中学生、12:30には学校に向かう小・中学生の姿が目立ちました。ベトナムでは子供の数が非常に多いため学校は午前、午後の二部制になっているそうです。また、朝・夕はバイクを上回る数の自転車が走っているのですが、日中はバイクの台数の方が多くなります。炎天下で自転車を漕ぐのをみんな避けていることがわかります。

多様な人の動きがある夕方

太陽がだいぶ傾き、影が長くなっていく16:30、およびもうあたりが暗くなっている18:30の観測では、再び交通量が増えていることが確認できます。A地点やC地点では朝と逆の帰宅ラッシュと思われる動きが見られるものの、全体としては数的にも方向的にも朝ほど極端な集中は見られず、夕方には帰宅だけでなく、買い物や食事など人々が多様な目的で移動していることが読みとれます。

生活道路の交通特性

幹線道路では、通過交通が多く、それを相手にした商店やカフェなどが沿道に並んでいますが、住宅地内の生活道路では、住宅の他には地区内住民を相手にしたピリヤード場やカフェ、それに裁縫などの作業場が沿道に見られます。そうした生活道であるC地点では、他の地区よりも徒歩の人が多いという特徴が見られました。これは、それほど遠くない所への買い物などの行動が見られたものだと思います。

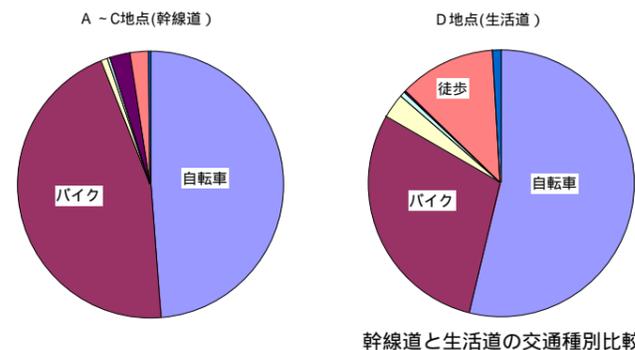
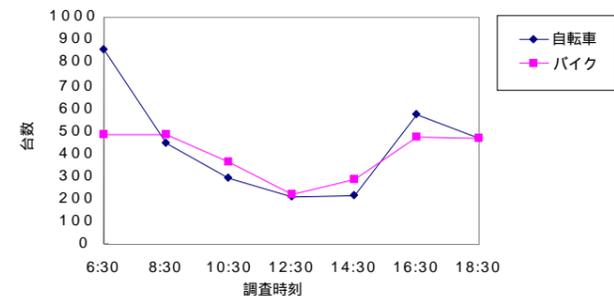
まち歩き調査

連日のまち歩き調査の中でも、人々の、時間に応じた活動が確認できました。道路の交通量だけでなく、朝夕には屋外での様々な活動が活発になります。

道端の屋台での朝食

フエの朝は早く、6時台には幹線道の交差点などに屋台が出現し、通勤・通学途中の人々が立ち寄って、朝食を取っています。屋台では麺類やお粥、そしてフランスパンなどが売られているようで、屋台の脇のプラスチックのイスに座って麺をすすする姿や、フランスパンをかじりながら自転車を漕ぐ姿が見られました。

住宅地の生活道路にも同様にたくさんの屋台が出ていて、近所の住民で賑わっていました。フエでは、朝食は自宅で作らずに、外で食べるのが一般的なようです。



朝に夕にまちにあふれ出す子供たち

フエでは一家の子供の数が多く、学校が二部制のため、常にまちに子供があふれています。学校に行かない時間、子供達は、遊びや家事のお手伝いをしながら過ごしているようです。

朝には、住宅地の道端でサッカーやバドミントンをして遊ぶ姿、川で母親と一緒に洗濯をする女の子たち、家の前の掃き掃除をする男の子などが見られました。

日中は子供達の姿も少ないようでしたが、家の庭先の木陰などで、兄弟で遊ぶ姿がよく見られました。

夕方になるとまたまちが子供達で賑わい出します。川では、泳ぎを楽しむ子供達のグループや、女の子達が夕飯の下ごしらえをしたり、せんたくをする姿が見られました。そして、まちのあちこちにある広場では、一斉に男の子達のサッカーが始まります。住宅地の道端ではたき火をする男の子達もいました。

このようにフエでは、まち全体が子供の遊び場のようになっています。

今後も環境に適応した生活時計の維持を

このようにフエの人々は、太陽の動きに合わせて、一日の時間を合理的に使っていることがわかりました。

家も電車もオフィスも、常に同じ温度・明るさに保たれた中に暮らしている、私たちにとっては、一日の時間そして、季節の移り変わりを感じられる生活というのは、うらやましいものと感じられます。

今後も、人にも環境にもやさしい、この生活時計を維持していくことが、大切ではないでしょうか。